

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 08年8月 ～貿易収支は赤字に転落

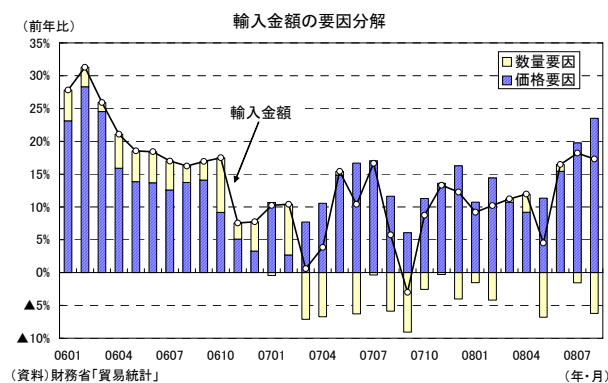
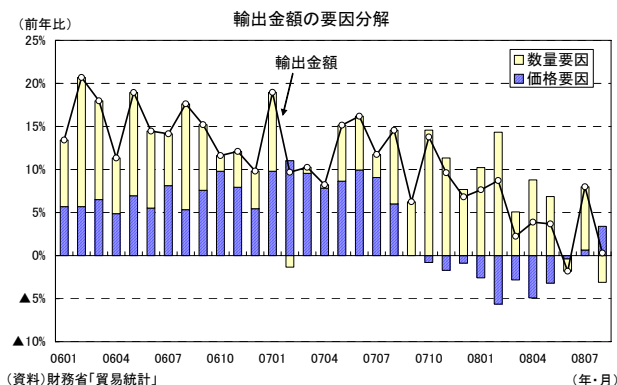
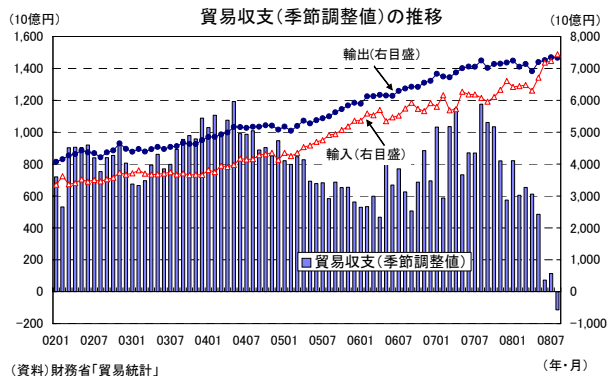
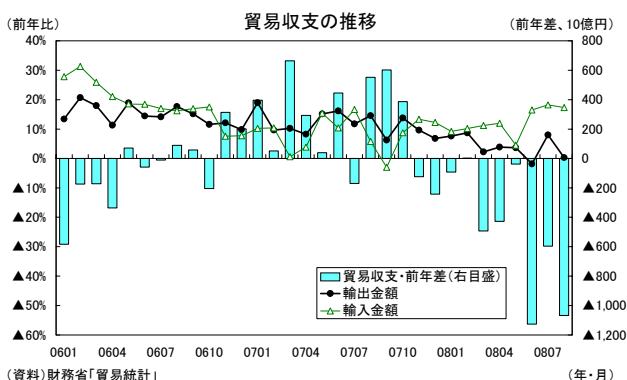
経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支は原数値、季節調整値ともに赤字に転落

財務省が9月25日に公表した貿易統計によると、8月の貿易収支は▲3,240億円の赤字となり、ほぼ市場予想通り（ロイター集計：▲4,000億円、当社予想は▲1,404億円）の結果となった。また、貿易収支の季節調整値も▲1,133億円の赤字となった。

貿易収支の赤字化は、原数値では正月休みの影響で輸出量が少ない1月を除けば1982年11月以来ほぼ26年ぶり、財務省が公表している1998年9月以降の季節調整値では初めてのこととなる。



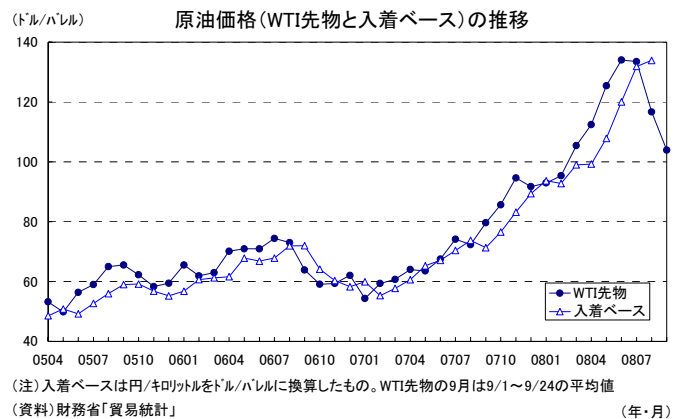
輸出価格は前年比3.5%（7月：同0.6%）と伸びが高まったが、輸出数量が前年比▲3.1%（7月：同7.3%）と急減速したため、輸出金額は前年比0.3%（7月：同8.0%）とほぼ横ばいにとどまった。

輸入数量は前年比▲5.5%（7月：同▲1.4%）と減少幅が拡大したが、原油高の影響などから輸入価格が前年比24.2%（7月：同19.9%）と伸びがさらに加速したため、輸入金額は前年比17.3%と7月の同18.2%に続き高い伸びとなった。

8月の貿易収支が赤字となった主因は、入着ベースの原油価格が高止まりしたことにより、輸入価格が前年比24.2%と非常に高い伸びとなったことである。WTI先物ベースの原油価格は6、7月（月中平均）の1バレル=130ドル台をピークに8月が117ドル、9月（9/1～24）が104ドルと大幅に下落しているが、通関（入着）ベースの原油価格はWTIに遅れて動く傾向があるため、7月の132ドル/バレルから8月も134ドル/バレルと高止まりした。

9月以降は入着ベースの原油価格も下落に転じ、輸入価格の上昇率は頭打ちとなることが見込まれる。このため、現時点では貿易収支の赤字化が定着しているとは見ていない。

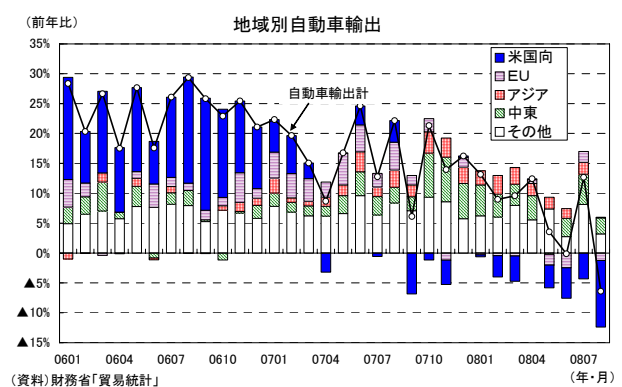
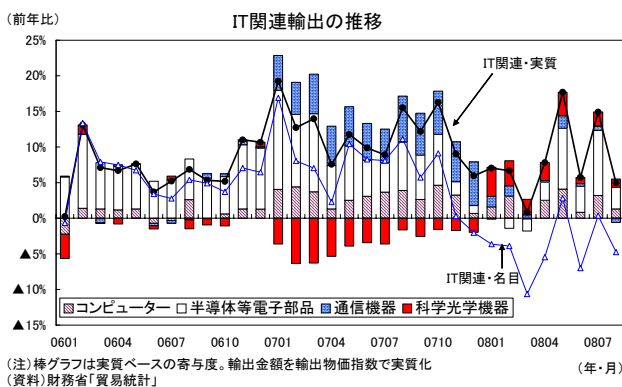
ただし、ここにきて輸出の減速が鮮明となっているため、輸出の低迷と輸入価格の上昇率低下が綱引きする形で、貿易収支は低水準で推移することが予想される。



2. 米国向け輸出の減少幅が急拡大

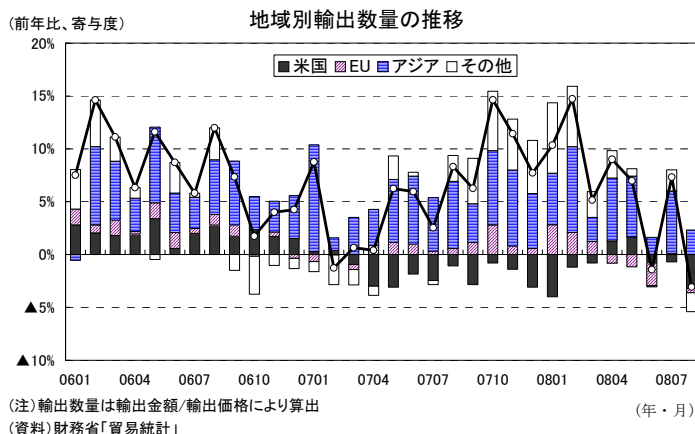
輸出の内訳を見ると、IT関連品目では、科学光学機器（同3.8%）は増加したものの、コンピューター（名目・前年比▲16.4%）、通信機（同▲12.5%）、コンピューター部分品（同▲6.1%）、半導体電子部品（同▲4.1%）が減少したため、全体では前年比▲4.7%の減少となった。IT関連品目は価格の大幅な下落により実質の伸びは押し上げられているものの、7月の前年比14.9%から8月には同4.9%へと大きく減速した。

自動車輸出は前年比▲6.4%（7月：同12.7%）と2ヵ月ぶりの減少となった。中東向け（前年比26.6%）、ロシア向け（同45.3%）は高い伸びを維持したが、アジア向けは前年比1.0%の低い伸び（7月：同24.5%）にとどまり、米国向けが前年比▲30.1%、EU向けが前年比同▲8.4%と大きく落ち込んだ。



輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲16.9%（7月：同▲3.4%）と減少幅が急拡大し、EU向けも前年比▲3.3%（7月：同0.8%）と2ヵ月ぶりに下落に転じた。アジア向けは前年比4.6%と増加を維持したものの、7月の前年比11.5%からは伸びが大きく鈍化した。

また、当研究所で試算している主要3地域（米国、EU、アジア）以外の「その他地域」向け輸出の寄与度は、7月の前年比2.0%から8月には同▲1.8%と大きく落ち込んだ。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。